

【栃木県から世界へ！ JICA 海外協力隊】

2024年度1次隊 栃木県各自治体への表敬訪問

国際協力機構（JICA）は、2024年8月に栃木県から4名のJICA海外協力隊員を2024年度1次隊として派遣いたします。隊員は、任国への出発を前に、下記のとおり栃木県知事及び市長を表敬訪問いたします。併せまして、開発途上国での2年間の活動を終えて帰国したJICA海外協力隊員の帰国時表敬訪問についても同時に実施いたします。つきましては、貴社媒体にて、栃木県から世界へ飛び立つJICA海外協力隊を県民の皆様にご紹介いただけましたら幸甚です。

1. 表敬訪問日程

表敬先（敬称略）	日時・場所	表敬者（敬称略）
※表敬先が、知事から副知事に変更になりました。 栃木県 副知事 天利 和紀	2024年7月25日（木） 11：00～11：15	同県 JICA 海外協力隊員 4名 秋山 収・大川 千穂・瀬谷 友啓 古橋 綾乃 帰国隊員 3名 林 健司・沼野 彩香・中里 大介
宇都宮市 市長 佐藤 栄一	2024年7月19日（金） 11：05～11：20	秋山 収・古橋 綾乃
足利市 市長 早川 尚秀	2024年7月29日（月） 13：00～13：15	瀬谷 友啓
佐野市 市長 金子 裕	2024年7月29日（月） 14：30～14：45	大川 千穂

2. JICA 海外協力隊 リスト

(1) 2024年度1次隊 派遣前隊員 4名

隊員区分	氏名	職種	国名	配属先
シニア海外協力隊	<small>あきやま おさむ</small> 秋山 収	理科教育	ケニア	アフリカ理数科・技術教育センター

【活動内容と抱負】
タイと日本の環境問題に関する意識の違いをアンケート調査する機会があり、学校訪問などを通じてそれぞれの国に長所があることを実感しました。それ以来、いつか教育分野で国際協力をしたいと考えようになりました。ケニアの理科教育は板書での授業が多いためアフリカ理数科技術教育センターに展示する実験教材の充実・多様化を図り、ケニアをはじめアフリカ諸国の理科教育を発展させることが期待されて

います。33年間理科教師を勤めた自分の強みは授業と部活動の指導力です。この技術をここで役立て、また帰国の際にはケニアの長所を持ち帰ってきたいと考えています。

青年海外協力隊	大川 千穂	幼児教育	スリランカ	ウバ幼児教育開発局
---------	-------	------	-------	-----------

【活動内容と抱負】
以前より海外で生活をしたい思いがあり、調べていくうちに JICA の存在を知ったのがきっかけです。今回、幼児教育という職種で現地の職員と共に教員の質の向上を目指していきたいと思っています。巡回指導や遊びの紹介などを行う予定です。また、ワークショップなどで地域の人々とも触れあえるような環境を築いていきたいです。

青年海外協力隊	瀬谷 友啓	環境教育	エクアドル	県庁環境管理部
---------	-------	------	-------	---------

【活動内容と抱負】
協力隊に参加した理由は、異なる文化や習慣を体験し新たな視点を得るためです。高校生の時、初めて海外に行った際の言葉や生活の違いに衝撃を受けました。いつか、自分の知識を海外で役に立ててみたいと考えるようになりました。大学では環境について学び、卒業後は知識を活かすため環境教育の分野で協力隊に参加しようと考えましたがコロナウイルスの影響により参加できませんでした。大学卒業後は別の道に進みましたが協力隊として活動してみたいと思い、参加を決意しました。
活動内容は小中学校や地域住民に対して環境に対する意識向上のための啓発活動を行う予定です。森やその中にある、モノや土、植物など実際にあるものを使用しながら行います。環境の大切さに興味をもってもらえるように活動を行いたいと考えています。

青年海外協力隊	古橋 綾乃	司書	カンボジア	教育青年スポーツ局 初等教育課
---------	-------	----	-------	--------------------

【活動内容と抱負】
学生時代にカンボジアを訪れたことがきっかけで国際協力に興味を持ち、いつか自分にできる形で開発途上国の役に立ちたいと思うようになりました。学校司書としての経験を活かせる募集があることを知り今回の応募に至りました。現地では司書の資格が存在しないとのことなので、担当職員への指導や子どもたちが本に親しむことができる環境づくりに努めたいと思います。

(2) 2023 年度・2024 年度帰国隊員 3 名

隊員区分	氏名	職種	国名	配属先
青年海外協力隊	林 健司	理科教育	カンボジア	コーンポンスプー州 小学校教員養成校

【活動報告】
カンボジア各州にある小学校教員養成校の学生や同僚理科教員に対して、理科実験を伝えるというのが主な活動でした。協力隊に参加して自分が人としてとても成長することができました。自分が役に立てたかどうかは正直わかりませんが、自分でビジョンを決めて行動する癖ができました。誰かの成長と幸せを願って行動しましたが、それはどの場所でも（日本だろうがどこでも）同じだと感じるようになりました。また、良い悪いは文化が違えば全く異なるものになること、今やっていることが正解なのかは今分らないのだと知ったことなど、視野が広がりました。大事なことは自分がこうであろうと考える方向性なのだ分かりました。これは異国の地で、ボランティアという形で身を置いたからこそわかったことだと思います。

青年海外協力隊	沼野 彩香	障害児・者支援	スリランカ	北西部州政府 社会サービス局
---------	-------	---------	-------	-------------------

【活動報告】
北西部州政府社会サービス局に所属し、州内の障害児・者施設を巡回訪問し、施設の教員と授業や行事を行うほか、所属する障害のある子どものアセスメントを行い教員や保護者に指導方法、支援方法の提案をしました。また、月に1度、特別支援教育に関するワークショップを教員向けに開催しました。その他、同僚とともに高齢者施設を訪問したり、高齢者介護人材育成のためのスクールで講師を行ったり、病院への薬の寄付をしました。活動を通して現地に溶け込んだ生活をする中で、お互いの国への理解や親しみが高まったと感じています。個人の友好的な関係が国同士の友好的な関係につながるのではないかと感じました。また、協力隊参加はボランティア自身の専門知識を伝え、現地が発展していくことはもちろんで

すが、ボランティア自身の人間的な成長や、自身の専門知識・専門技術を振り返り、ブラッシュアップさせたり成長させたりする良い機会となるものであると感じました。

青年海外協力隊	なかざと だいすけ 中里 大介	コミュニティ開発	マダガスカル	アンチラベ農業機械 製造・研修センター
---------	--------------------	----------	--------	------------------------

【活動報告】

活動地での農業機械普及プロジェクトでは、現地の農機具職人や農業普及員と協力し、販売促進のためのプログラムを策定しました。さらに、現地の村に溶け込むために、地元の農民たちと一緒にコンポスト作りや自然農薬の製造など、彼らのニーズに応じた支援活動も実施しました。JICA ボランティア事業は途上国だけでなく、今の日本にとって必要な事業だと思います。日本以外の世界に出るといことは日本の価値観だけが正解ではないと、かくいう自分も世界に出て特にこのボランティア活動を通して強く感じました。「豊かさ」とは？「生きる」とは何かという日本に在るだけでは考えることがなかなか無いようなことを考える日々が多かったと思います。

3. JICA 海外協力隊とは

JICA 海外協力隊は、日本政府の ODA（政府開発援助）の一環として、独立行政法人国際協力機構（JICA）が実施する事業です。「開発途上国の経済・社会の発展、復興への寄与」、「異文化社会における相互理解の深化と共生」、「ボランティア経験の社会還元」を目的としています。

日本国籍を持つ 20 歳～69 歳の方が対象となり、派遣期間は原則 2 年間。日本で培った知識や経験を活かし、開発途上国と国際協力の志を持った方々が、現地の人々とともに生活し、草の根レベルで開発途上国の抱える課題の改善・解決に貢献します。

詳細は、JICA 海外協力隊 Web サイトをご覧ください。

<https://www.jica.go.jp/volunteer/index.html>

【本件に関する問い合わせ先】	
JICA 栃木デスク	田島 繁樹
TEL : 028-621-0777	
(栃木県国際交流協会内)	
E-mail : jicadpd-desk-tochigiken@jica.go.jp	